

アメリカ合衆国大統領
ジョー・バイデン 殿

バイデン米政権による臨界前核実験に抗議する声明

非核の政府を求める大阪の会 常任世話人会

米国は5月14日に臨界前核実験を行った。

バイデン政権となって3回目である。

臨界前核実験は、核兵器弾頭の劣化状態を確かめるもので、核戦力を維持するための手段とされている。

現在、世界の93か国が署名し70か国が批准する核兵器禁止条約では、核兵器の保有、開発、実験、製造等が一切禁止されている。今や核兵器禁止は世界共通ルールであり、バイデン政権の今回の実験は、この国際ルールに背く行為である。

また、米国自身が推進、関与してきた国際条約等をみても、

包括的核実験禁止条約（CTBT）の趣旨である、核軍備の縮小や核兵器の「質向上」の抑制に反する行為であり、

核不拡散条約（NPT）第6条、「各締約国は、核軍備競争の早期の停止及び核軍備の縮小に関する効果的な措置につき、並びに厳重かつ効果的な国際管理の下における全面的かつ完全な軍備縮小に関する条約について、誠実に交渉を行うことを約束する」にも反する行為である。

非核の政府を求める大阪の会は、核兵器廃絶の国際世論に背を向けるバイデン政権の再三にわたる臨界前核実験の実施に強く抗議するものである。

2024年6月24日